

発刊にあたり

監修 龍谷大学農学部食料農業システム学科
特任教授 野田 公夫

滋賀県は、中央部に巨大な琵琶湖がすわり、周囲に農地が広がり、外縁部を山が取り囲んでいる。山々に発する河川はすべて琵琶湖に注ぎ、琵琶湖集水域全体が淀川水系の最上流部を構成している。いわば高い自立性をもった“小宇宙”として存在しているのである。

このような地理的環境（小さな自然）は、「人・水関係」のあり方に顕著な特質を与えてきた。(1) 人による制御・工夫の余地が相対的に大きく、他の諸県に比べはるかに多様な水利システムを作り出してきた（多様な水利システム）し、(2) 同じ事情が古い時代から人の居住・農の営みを可能にし、多彩な社会システムと文化を生み育ててきた（長く分厚い歴史）。さらに、(3) 巨大な琵琶湖の存在が、琵琶湖と一体化した個性的な農業生態系を作り出すとともに「水」に対する高い感受性を人々の間に育ててきた（マザーレイク）。

本冊子は、「全体の概説か典型事例の紹介か」ではなくそのいずれも、「地域史・地域個性」や「各種のトピックス」にも力がいれられたうえ、興味深い図版も豊富に収録されている。滋賀県農業水利変遷史のまさに決定版ができたといったらよかろう。

近年、「よりよい未来」を構想するうえで欠かせない「ヒントの束」として歴史を学ぼうという機運が高まっている。本県の「魚のゆりかご水田米」も、そのような時代の流れを体現した興味深い取り組みであるといったらよい。今、農業水利の歴史は農業と農業者だけのものではない。「持続的社会」「自然との共存」「豊かさの再検討」等がキーワードになった時代に生きる私たちすべてが知っておいてよい知恵でありヒントである。ぜひとも多くの皆さんに本冊子をひもといて頂きたいと願っている。